

2025 年度 (令和 7 年度) 学校評価自己評価表

校番	福山市立 福山中・高等 学校
最終更新日	2025年(令和7年)4月1日

I 福山市	ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

II 自 校	前年度学校関係者評価の主な内容 ○生徒が明るく前向きな笑顔で過ごしている様子が見られた。 ○めざす生徒像につながる取組が効果的に実践されていると感じた。 ○HPが新しくなり、整理され閲覧しやすくなった。 ○地域との連携が、地域の方々の信頼につながっていることは大変素晴らしい。 ○中高一貫校の特徴を生かした取組が効果的に行われていると思う。	育成する力 資質・能力	探究心・創造力・思考力 コミュニケーション力 協働 チャレンジ精神
教育理念	ESD（持続可能な開発のための教育）を通じて、生徒一人一人が持つ潜在的な独創性を引き出し、溢れる知性とチャレンジ精神をエネルギーに、持続可能な社会の創造に向けグローバルに活躍する人間を育成する	めざす生徒像	○積極的に地域や社会に働きかけ、課題を発見し、よりよい価値の創造に向け努力する生徒 ○多様性を認め合う寛容さをもち、互いの思い・考えを大切にしながら協働する生徒 ○心身ともに健康で、困難に負けず粘り強く挑戦し続ける生徒
学校教育目標	旺盛な探究心、豊かな創造力、柔軟な思考力を育み、課題の解決に向け粘り強く挑戦する生徒の育成		

現 状	中学校	高等学校	研究	テーマ	グローバル社会・地域社会で活躍する意欲と態度をもった生徒をどう育成するか
	〈生徒〉 ○「通学マナーを守っている」に対する生徒の肯定的評価は99.1％と非常に高いが、列車内及び登下校でのマナーにおいて地域から苦情が寄せられるという事実がある。 ○教科指導、特別活動（学活・生徒会活動・学校行事）、進路指導等、学校の取組に対する生徒、保護者の満足度、帰属意識は高い。「福山中で学んで良かった」（生徒）、「福山中へ子どもを行かせて良かった」（保護者）に対する肯定的評価はそれぞれ93.4％、95.6％である。 ○「生徒会活動（委員会含む）」に積極的に参加している」に対する生徒の肯定的評価は68.3％である。 ○「自ら挨拶している」に対する生徒の肯定的評価は85.9％であり、10％程度評価が下がっている。 ○長期欠席者数は、12人である。	〈生徒〉 ○「国公立大学合格延べ数を99人以上とする」に対し94人、「難関国公立大学合格延べ数を15人以上とする」に対し難関大・医歯薬獣医合計11名の合格。 ○国公立大学を第1志望とする生徒の割合は入学時は85.0％である。 ○「モラルを理解している」との回答92.5％、「場面に応じた適切な行動がとれる」との回答90.5％であった。 ○「本校の学校行事は、生徒の自主的、自治的活動になっている」との回答86.8％、部活動加入率は92％であり、「部活動から充実感や達成感を得ている」との回答67.6％であった。	内容等		・「主体的・対話的で深い学び」の実践的授業研究 ・生徒の探究能力・コミュニケーション能力の育成を目的とした実践的授業研究 ・ESDの2観点に基づいた資質・能力を育成するための授業づくり
	〈授業〉 ○中学3年生を対象とした全国学力学習状況調査において、昨年度の結果は国語78％、数学84％でいずれも市平均よりも大きく上回る結果となった。また、学力の伸びを把握する調査の結果より、学力を伸ばした生徒の割合は国語では1年49.1％、2年43.6％、3年49.5％、数学では1年生48.1％、2年47.9％、3年で16.2％、英語では3年89.2％であった。探究的な学びを通して、生徒は着実に力をつけてきている。 ○昨年度実施した学校評価アンケートでは、「主体的な学びをすすめるような授業の研究・工夫をしている」と感じる生徒が88.6％、「総合的な学習に主体的に取り組んでいる」生徒が92.3％といずれも高評価であり、生徒の主体性の高まりが見られる。また、「主体的な学びを取り入れた授業改善を行っている」教員は90.9％であり、教員の意識も高い水準である。 ○今後も、校内研修の充実を図るとともに、数学、英語での習熟度別のきめ細かい少人数授業、総合的な学習で取り組んでいる探究学習「My探究」、全教科でのICTを活用した多様な学習、課題の提示の仕方や家庭学習を工夫して行う指導、ESDの視点を加味した授業研究に取組み、生徒の資質・能力を育成する。	〈授業〉 ○生徒アンケート「授業を理解している」の肯定的回答は4年79.8％、5年71.8％、6年88.2％。教職員アンケート「授業計画表を活用した授業を実践した」の肯定的回答は82.3％。 ○「資質・能力の向上に努力している」78.0％、ルーブリックの「創」/「思」/「コ」の伸長率は4年2.5→2.9/2.6→3.0/2.9→3.3、5年3.2→3.9/3.2→3.9/3.4→4.0、6年3.0→3.4/2.9→3.5/3.4→3.7。 ○学校評価アンケートのほとんどの項目は肯定的評価が70％以上であり、主体的に授業や探究活動に取組む姿勢がみられる。一方、残り30％の生徒は、授業の理解度が弱く、様々な場面において自己評価も低くなっており、この層の達成感を高める工夫が必要である。 ○継続して、ホールスクールで資質・能力を高める授業の工夫に取り組む。	めざす授業の姿		(1) 「主体的な学び」の過程が実現できている授業 ① 学ぶことに「興味や関心」を持っている。 ② 自己の「キャリア形成の方向性」と関連付けている。 ③ 「見通し」を持って「粘り強く」取り組んでいる。 ④ 自己の学習活動を「振り返って」次に「つなげて」いる。  (2) 「対話的な学び」の過程が実現できている授業 ① 「生徒同士の協働」を通じ、自己の考えを広げ、深めている。 ② 「教職員や地域の人との対話」を通じ、自己の考えを広げ深めている。 ③ 「先哲の考え方を手掛かりに考えること」等を通じ、自己の考えを広げ深めている。  (3) 「深い学び」の過程が実現できている授業 ① 知識を相互に「関連付け」てより深く理解している。 ② 情報を精査して「考えを形成」している。 ③ 問題を見いだして「解決策」を考えている。 ④ 思いや考えを基に「創造」している。

## Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立

福山中

学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
	中高の系統的な 学習活動を通して、キャリア形 成に向け、主体 的に歩む生徒を 育てる。 【確かな学力】		継続	基礎的・基本的な 知識、技能を備え た生徒	・生徒に課題設定を させたり、自主学習 を充実させたりす る。	・「自分なりに工夫 をして課題や学習に 取り組んでいる」と 回答する生徒を85% 以上とする。	・生徒会と連携し、現状把握 のアンケートを実施した。 「自分なりに工夫をして課題 や学習に取り組んでいる」と 回答する生徒が87.6%だっ た。	4	4	・生徒会が行ったアンケート をもとに、生徒会と連携し、 肯定的評価を行う生徒が維持 できるように取り組んでいき たい。					
			継続	知識、技能を活用 して思考、判断、 表現することがで きる生徒	・知識、技能を活用 して、思考・判断・ 表現させる内容の授 業を行う。	・「授業で考えること がおもしろいと感じ ている」と回答す る生徒の割合を85% 以上とする。 ・定期考査において 活用問題の得点率を 60%以上とする。	・「授業で考えることがおも しろいと感じている」と回答 する生徒が87.9%だった。 ・1学期の定期考査における 活用問題の平均得点率は 60.1%であった。	4	4	・目標数値をすでに上回っ ているものの、この値を年度末 まで維持できるように、授業 の工夫を行っていき、授業と 評価の一体化に努めていき たい。					
			継続	高い志を持って、 主体的な学びに向 かうことができる 生徒	・学期始めに「キャ リア・ログ」を書く ことで、自己をみつ め、将来なりたい自 分（職業など）の姿 を考える時間をと る。	・自分は「進路につ いて考え、目標を見 つけようとしてい る」と答える生徒を 85%以上とする。	「進路について考 え、目標を見つけよ うとしている」と答 えた生徒は86.7%で あり、目標値を上 回った。	3	3	・引き続き、学期始 めと学期終わりに キャリア・ログを書 くことで、進路意識 を高めていきたい。					
	中高の学校生活 の中で共に成長 する経験を通し て、自他を尊重 し、他者と協力 できる生徒を育 てる。 【豊かな心】 【健やかな体】		継続	・社会人基礎力 （礼儀・マナー、 自律）を身に付け た生徒  ・充実した学校生 活を送るための自 己肯定感の高い生 徒	・登下校マナーや学校や 社会のルールについての 指導を充実させることで 生徒の自律意識を高め る。	・礼儀、マナー、挨拶に 関わるアンケート項目に 対する生徒の肯定的回答 の割合90%を以上とす る。	・生徒の肯定的回答の割合は 97.5%となっており、目標 値を上回っている。	4	4	・登下校中のマナーについ ては、全校集会やクラスで定期 的に注意喚起を行っている。 引き続き定期的に声掛けを 行っていきたい。					
					・SNSの使い方な ど、ネットリテラ シーを育む学習会を 開催し、全校生徒に 取組を行う。	・SNSやインターネットを通 切に使用しているかに関わる アンケート項目に対する生徒 の肯定的回答の割合を90% 以上とする。	・「家庭で通信機器（スマー トフォン）等を使用するル ールを決めていますか。」とい うアンケートで「決めてい る」と回答した89.8%と なっており、ほぼ目標値で あった。	3	3	・1学期にネットリテラシー に関する学習会を行った。家 庭で通信機器のルールを決め ていない生徒もいるので、定 期的に指導も行っていきた い。					
					・不登校（長期）生 徒数ゼロに向けて取 組を充実させる。	・長欠ゼロ実現の為に担当 者、担任と週に1回以上は連 携を取り、年間30日以上 の欠席者数を8人以内とし、新 規長期欠席者を0人をめざ す。（昨年度12人）	・9月末現在で長欠者は4 人、不登校は3人である。昨 年から引き続き不登校になっ ている生徒もいるが、かがや きやメタバースを利用し、以 前よりは改善がみられる。	3	3	引き続き、他の関係機関等と も連携をとりながら生徒一人 一人にあった取り組みを行っ ていきたい。					

## Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立

福山中

学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
	中高の学校生活 の中で共に成長 する経験を通し て、自他を尊重 し、他者と協力 できる生徒を育 てる。 【豊かな心】 【健やかな体】		継続	社会の形成者として 知徳体の基盤と なる道徳性を備え た生徒（教科「道 徳」を通じて）	・生徒の実態に合 わせた教材選び行 い、発問を工夫す ることにより、生 徒が自分の問題と して「考え、議論 する」道徳の授業 を行う。	・「道徳の授業を 通して、『よりよ く生きること』に ついて考えること ができた」と回答 する生徒の割合を 90%以上とす る。	・「道徳の授業を通 して『よりよく生 きること』について 感じる ことができた 」と回答した生徒は、 95.1%だった。	4	4	生徒の実態を学年の 教員で共有し、適切 な教材選びを行う。 また、教材の提示や ワークシートを工夫 することで「考え、 議論する」道徳授業 の実践を図る。					
				主体的な関わり合 いを持ちながら共 に伸びる生徒	・学級活動、学校 行事や生徒会行事 を通して人間関係 の構築を促す。	・「あなたは、学び 合いやグループ活動 において、自分の考 えが認められてい る」と回答する生徒 の割合を95%以上と する。	・「学びあいやグ ループ学習におい て、自分の考えが認 められている」と回 答した生徒は96.6% だった。	3	3	行事や授業などの中 で生徒同士が関わり 合う活動を積極的に 行い、生徒が安心して 自分の意見が言え る人間関係の構築を 目指す。					
	国際課題、地域 課題について探 究し、持続可能 な社会の創り手 となる生徒を育 てる。【持続可 能な社会の創り 手】		継続	地域を知り、地域 課題解決に取組む 意欲と態度を備え た生徒	・総合的な学習の時 間におけるMy探究や 教科の授業等で、社 会とつながる取組を 行う（全学年）。	・「福山中・高等学 校ESD3プロジェク ト」ルーブリックの ①地域課題解決力の レベルが上昇した生 徒の割合を50%以上 とする。	・ルーブリックは、春の実施 では①地域課題解決力の平均 ポイントは5ポイント中、 2.41ポイントだった（昨年 度2.54ポイント） ・2年生では10月実施の職 場体験学習に向けて準備を進 めている。	3	3	10月に2学年で実 施する職場体験学習 や、My探究、各教科 等で、引き続き校外 とつながりを持てる ように取り組む。					
				国際交流や国際課 題に取組む意欲と 態度を備えた生徒	・総合的な学習の時 間や教科の授業等 で、浦項大東中学校 等との国際交流の内 容を共有し、日本と 外国の良さや課題に ついて考える機会を 持つ（全学年）。	・「福山中・高等学 校ESD3プロジェク ト」ルーブリック② 国際課題解決力のレ ベルが上昇した生徒 の割合を50%以上と する。	・ルーブリックは、春の実施 では②国際課題解決力の平均 ポイントは5ポイント中、 2.32ポイントだった（昨年 度2.39ポイント） ・9月に23名の生徒が浦項 大東中学校へ訪問し交流を 行った。全校で国際交流をす る機会を持つことはできな かった。	3	3	海外の学校との交流 を全校で持つ機会 はなかなか無いが、各 教科の中で、国際課 題について考える機 会を取り入れ、世界 への興味関心を広げ させる。					
				自尊心を高め、学 びを活かすライフ プランを設定し、 よりよい在り方生 き方を考える生徒	・総合的な学習の時 間におけるMy探究や 教科の授業等で、社 会とつながり自分自 身について考える取 組を行う（全学 年）。	・「福山中・高等学 校ESD3プロジェク ト」ルーブリックの ③在り方生き方探究 のレベルが上昇した 生徒の割合を50%以 上とする。	・ルーブリックは、春の実施 では③在り方生き方探究の平 均ポイントは5ポイント中、 2.53ポイントだった（昨年 度2.64ポイント） ・My探究では、1年生は自 分の興味・好きを探究しており 、2・3年生は、学校・地 域・社会とのつながりを考え て探究している。	3	3	進路講話を開催したり、 総合的な学習の時 間等で進路学習を したりすることを通 して、自らの将来に 向けたより良い在り 方生き方について考 えさせる。					

## Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立

福山中

学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
	本校の教育実践を 積極的に情報発信 する。 【開かれた学校】		継 続	様々な機会と手段 を有効活用し、本 校の取組を校内外 に広く発信する。	・小学校と連携す る。 ・本校生徒が活躍 するオープンス クールを実施す る。 ・ホームページ等 で、学校生活の様 子がわかる情報を 保護者、地域に発 信する。	・オープンスクール への参加者数を750 人以上、受検倍率3.2 ～3.5倍を目指す。	・オープンスクールの申し込み 数は617名、参加者数は586名 と目標値を下回った。（昨年度 参加者763名） ・事後アンケートの結果は、満 足と回答した人は97.8%だっ た。	3	3	夏季休業日の変更や様々な行 事と重なったため、参加者が 下回ったと考えられる。来年 度の開催時期を検討し、目標 達成を目指す。					
						・ホームページの更 新回数を月平均6回 以上とする。	・HP更新回数、月平均 6.9回と目標を上回って いる。 ・毎月生徒会広報誌を地 域に配付することができ た。	4	4	・HPの更新数や生徒会広 報誌の発行は今後も継続 する。 ・普段の生徒の様子や部 活動の様子なども発信 し、中学校のPRをしてい く。					

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
中高の系統的な 学習活動を通して、キャリア形 成に向け、主体 的に歩む生徒を 育てる。 【確かな学力】		継続	基礎的、基本的な 知識、技能を備え た生徒	・基礎基本の定着 を意識した授業を 行う。	・学校評価アンケート（生徒）「授業では、これまでに学んだことと新たに学ぶ内容とを関連付けて考えています。（広島県質問紙と同等）」を80%以上とする。	学校評価アンケート 「授業の内容をおお むね理解している」 4年:108(76.6%)/141 5年:64(84.2%)/76 6年:91.9(82.1%)/112	3	3	関連付けするための理解を考えると、80%を超えていない学年がある。 授業冒頭での振り返りや「なぜ学ぶか」を意識した授業計画をしてもらう。					
				・授業計画表などを効果的に活用し自ら進んで勉強に取り組む生徒を育成する。	・学校評価アンケート（生徒）「ふだんから計画を立てて勉強に取り組みます。（広島県質問紙と同等）」を50%以上とする。	学校評価アンケート 「授業計画表を活用している」 4年:68(48.3%)/141 5年:43(56.6%)/76 6年:68(60.7%)/112	3	3	授業計画表だけでなく、別の媒体（手帳等）の検討を行う。 また、4年は高校生活のスタート段階であるため、意義や使い方が十分に理解されていない可能性がある。					
		継続	知識、技能を活用して思考、判断、表現することができる生徒	・「3つの学び」を意識した授業の工夫を行うことにより、生徒の6つの資質・能力を高める。	・「3つの学び」を意識した授業を行い、ルーブリックの資質・能力の内、「創造力」「思考力」「コミュニケーション力」の伸長率を20%以上とする。	第1回の結果は以下の通り。 4年：創2.5思2.4コ3.0 5年：創3.2思3.3コ3.5 6年：創3.5思3.6コ3.7	3	3	ルーブリックの平均値は第2回との比較を待つ（12月）。2学期は修学旅行や探究の成果発表の機会があり、さらなる伸長が期待できる。					
	継続	高い志を持って主体的に学びに向かい、時代の変化に対応できる生徒	・LHRや学年集会、進路講演会等を通して、進路実現の意識を高める。  ・国公立大学受験に対応した進路指導を行う。	・進路希望調査で国公立大学を第1志望とする生徒の割合を80%以上とする。	高1生80.0%、高2生85.0%、高3生74.0%、全体では79.6%となった。	4	3	低学年には国公立大進学を意識づけるために個人面談や学年集会を通して指導する。3年には面談で国公立大受験の可能性を示す。						
				・進路希望調査で難関国立大学を第1志望とする生徒の割合を10%以上とする。	医歯薬希望を含め、高3生35名（8月現在）で18.1%が志望している。	4	3	低学年時に難関大受験支援プログラムで教科学力向上を目指し、難関大受験を意識した学習計画を立てて取り組ませる。						
				・共通テストを受験する生徒の割合を95%以上とする。	共通テスト出願者は189名／193名で、97.9%となった。	5	5	達成した。						
			・細やかな教科指導と個人面談を通して、共通テストに出題される6教科8科目の学習を継続させる。	・国公立大学合格を97名以上とする。（延べ数、過年度生含む）	6年生国公立大希望者143名 国公立大学総合型及び学校推薦入試出願予定者48名（9月現在）	5	3	個別の面談で生徒の希望を把握し総合型・学校推薦・一般入試において適切な受験先の指導を行う。						
			・難関国公立大学志望の生徒に対する学力向上支援を低学年から計画し実践していく。	・難関大学合格を10名以上、地元国公立大学合格を40名以上とする。（延べ数、過年度生含む）	医歯薬を含め高3生8月模試での難関大C判定以上11名（D判定13名）、広島大志望16名うちC判定以上3名、岡山大志望33名うちC判定以上10名 5	4	3	当該生徒の教科学力と希望学部・学科を把握し、学年・進路・教科で連携して指導する。データ分析をもとに全国的な受験動向を把握する。						

## Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山高等 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
	中高の学校生活 の中で共に成長 する経験を通して、 自他を尊重し、他者と 協力できる生徒を育 てる。 【豊かな心】 【健やかな体】		継 続	社会の形成者として 知徳体の基盤となる道 徳性を備えた生徒	・生徒の自己分析を促 したり、ネットリテラ シーを育んだりするよ うな講演会を依頼し、 全校生徒に取組を行う。	・自己肯定感や、ネッ トリテラシーに関わる アンケート項目に對す る生徒の肯定的回答の 割合を80％以上とす る。	生徒の肯定的回答の割 合は92％であった。	4	4	あらゆる場面でネット リテラシーに関する情 報提供および指導を 継続する。					
				社会人基礎力（礼儀・ マナー、自律）を身に 付けた生徒	・学期ごとに「生徒指 導重点目標」を設定し 、それぞれにおいて指 導項目を焦点化するこ とで教職員による組織 的な指導を行う。風紀 委員会活動等での啓発 活動を行う。	・礼儀、マナー、挨拶 に関わるアンケート項 目に對する生徒の肯定 的回答の割合80％を 以上とする。	社会のルールなど、適 切な行動や態度がとれ ているかの質問に對し て肯定的回答の割合が 91％であった。	4	4	今年度「挨拶励行」「 時間厳守」「清掃徹底 」の市立三訓を掲げた 。全校集会や学年集会 をととして継続的に指 導を行う。					
		継 続	部活動や学校行事、 生徒会行事に主体的 に取組む生徒	・一樹祭等を通じて生 徒の主体的、自治的活 動を促進する。	・「本校の学校行事は 、生徒の自主的、自治 的活動になっている」 という項目に對し、肯 定的に回答する生徒を 80％以上とする。	肯定的回答が88％、 昨年度比較2％上昇と 微増した。	4	4	継続して、生徒主体と なるよう企画・運営を 行う。						
				・各部活動が自らの活 動を発表したり、学校 行事等で活躍できたり する場を設ける。	・部活動加入率を80 ％以上とする。 ・「部活動から充実感 や達成感を得ている」 と回答する生徒を部活 動加入者の80％以上 とする。	部活動加入率は86 ％であった。部活動か ら充実感や達成感を得 ているかの回答は76.4 ％で、昨年度比較4％ 上昇と微増した。	3	3	継続して、各部活動が 自らの発表したり、学 校行事等で活躍できる 場面を設定する。						
				心身の発達に應じて 体育祭、スポーツ大会 等を計画的に実施す る。	・「あなたは体育祭、 スポーツ大会などに積 極的に参加している」 という項目に對し、肯 定的に回答する生徒を 80％以上とする。	肯定的回答が85％で あった。	4	4	執行部、委員会を中 心に生徒が主体となる 企画・運営を行う。						
		継 続	社会の形成者として 知徳体の基盤となる道 徳性を備えた生徒	・すべての委員会活動 を活性化させ、各種委 員会における自主的、 自治的な活動を推進 する。	・「あなたは委員会活 動などに積極的に参加 している」という項目 に對し、肯定的に回答 する生徒を80％以上 とする。	肯定的な回答が75％ であった。昨年度と比 較しても微増でほぼ横 ばい。	3	3	各種委員会を実施し 、生徒の自主的・自 発的な活動を促してい く。						
		継 続	地元企業と連携した 探究学習を通して、地 域を知り、地域課題解 決に取組む意欲と態度 を備えた生徒	・グローバル人材育成 事業により、高校生が 担当する企業に對し、 課題解決に向けた成果 物を作成する。	・「地域の企業や課題 に関して以前より興味 関心を持つようになった 」に関して対象の4年 生の学校評価アンケート で肯定率を65％以上 とする。	「地域探究」は、全学 年を通して71.3％、 企業研究に取り組んで いる4年生で肯定率は 71％であった。	4	4	引き続きコーディネ ーターや企業と連携を 図り、生徒が主体的に 課題解決に取り組める ようにする。						
ユネスコスクールとし て、国際交流や国際課 題に挑戦する意欲と態 度を備えた生徒	・海外研修や修学旅行 を通して国際課題解決 に向けたレポートの作 成・発表を行い、「夢プロ 」では国際課題に関す るプログラムに積極的 に参加する。		・「国際課題に関して 以前より興味関心を持 つようになった」に関 して5年生を対象とし て学校評価アンケート で肯定率を60％以上 とする。	肯定率は、全学年を通 して70.5％であり修 学旅行や国際課題に 取り組んでいる5年生 の肯定率は71％とな っている。	4	4	学年での「夢プロ」の 充実や、修学旅行を通 して異文化を体験する 。また、校内で国際交 流を共有できる場を設 け、肯定率の上昇につ なげていく。								

## Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山高等 学校

年 目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）					
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
	国際課題、地域課題について探究し、よりよい価値の創造に向け努力し、多様性を認め合い協働する生徒を育てる。【持続可能な社会の創り手】		継続	旺盛な探究心、課題の解決に向け粘り強く挑戦する学びを活かしたライフプランを設定し、よりよい在り方生き方を考える生徒	・「総合的な探究の時間」で行われる「グローバル人材育成事業」や「夢プロ」、その他の様々な教科から現代社会の課題を学び、その上で自身の在り方や生き方を考察させる。	・「社会や身の回りの様々な今日の諸課題に関して以前より興味関心を持つようになった」という項目で学校評価アンケート全学年を対象として肯定率を80%以上とする。	全学年を通しての肯定率は78.1%であった。各学年別では4年生が73.8%、5年生が80.2%、6年生が80.3%となっている。	4	3	今後の4年生校内発表や課題への取り組み、5年生修学旅行後の振り返りや夢プロなど発表や体験を通してさらに意欲を引き出す。					
	本校の教育実践を積極的に情報発信する。【開かれた学校】		継続	様々な機会と手段を有効活用し、本校の取組を校内外に広く発信する。	・中学校への学校訪問や訪問受入等による連携を積極的に行い、意欲ある本校受検者の定着と増加につなげる。	・オープンスクールへの参加者250人以上、最終の本校受検倍率1.1倍以上とする。	オープンスクールの参加は287名と目標値を上回り回復した。昨年度比19%増加した。（保護者を含めると475名、31%増加）	4	4	・本校の魅力発信に一定の成果があったが、昨年度は午前のみで参加者が減少したため、今年度は午前午後の2部構成に戻した。来年度以降も2部構成として、内容の改善を各方面と今年度中から連携して取り組んでいく。					
					・HPやブログを頻繁に更新し、持続的で魅力ある情報を保護者、地域に発信する。	・ホームページの月別更新回数を8回以上とする。	昨年からHPをリニューアルしている。更新回数は月平均18.8回と目標を上回っている。	4	4	・予算獲得をしてHPの外部受託の可能性を探っていく。本校教育活動の情報と生徒の活躍をリアルタイムで内外に配信する。					

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立												福山中・高等				学校	
年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）						
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策		
	働き方改革に取 組み、教職員の 健康増進と教育 の質の向上を図 り、教育公務員 としての自覚と 使命感を持つ。 【信頼される学 校】		継 続	教職員の超過勤務 時間削減	・月1回の一斉退校 日を徹底するとと もに、現行の業務 内容について点 検、見直しを行 い、業務改善を推 進する。	・1か月の時間外労 働80時間を超える 職員を減少させ、 月45時間以内の人 数を増加させる。	月1回の一斉退校日を 徹底することはでき た。働き方改革を進 め80時間を超える職 員は昨年度より中高 とも減少した。45時 間以内の職員数は昨 年度と比較して中高 とも大きな変化はな かった。	3	4	分掌や個人で、業務 の進捗状況を管理し て計画的に業務を推 進できる態勢を整備 していく。土日の部 活動指導は顧問間で 調整して負担が偏ら ないように配慮して いく。							
			継 続	法令遵守の自覚と 使命感を持つ教職 員	・年間計画に基づ き、不祥事防止研 修研修を実施する とともに、当事者 意識を高め、不祥 事の未然防止に取 組む。	・毎週初めの職員朝 会で不祥事防止に係 る研修を実施する。 不祥事防止研修は5 回／年以上実施す る。	毎週不祥事防止に係 る研修を職員朝会で 実施し意識を高め た。全体研修は2回 実施し、不祥事のな い職場環境を維持し ている。	3	3	不祥事を他人事と捉 えずいつでもどこで も起こり得ること認 識し、事例は全体共 有するとともに、お 互いに声を掛け合 い、風通しのよい職 場づくりを目指す。							

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。